

辻野兼範（静岡大学 教育支援員）

1. はじめに

PFAS は発がん性のある永遠の化学物質といわれ沖縄の嘉手納基地周辺の河川水で 1,500ng/L、基地の土壌が 28,000ng/kg もの高濃度で汚染されていることが明らかになり、その後、岐阜県各務原の自衛隊基地周辺の地下水が国の指針値である 50ng/L 以上の 150ng/L(各務原市)が検出されている。現在 PFAS は製造使用が禁止されているが、浜松自衛隊基地では 1980 年代から 2000 年にかけて泡消火剤による消火訓練が実施されており、当時使用した泡消火剤に含まれる PFAS が消火訓練をした場所の土壌に浸透吸着し、現在その汚染土壌が二次汚染源となり、周辺に溶けだして地下水汚染が進んでいると考えられる。本報告では、浜松基地周辺の河川水、地下水、土壌の PFAS 濃度を報告し、三方原台地の PFAS 汚染の実態を市民が共有し、今後の調査方針と対策を考えることを目的とする。

2. 材料と方法

浜松市環境保全課が調査、公開している河川水と地下水のデータを筆者がグラフ化した。自衛隊基地近傍から地下水が湧水し、新川起点に流入しているの、その湧水と、湧水に曝露されている土壌を採取し分析した。新川は佐鳴湖に流入しているの、佐鳴湖の湖水と底質を採取した。伊佐地川上流に北部承水路支流が流れ込み、この支流で浜松市が PFAS 浄化効果検証試験を実施し中間報告をしているので解説する。分析は原田浩二教授(京都府立大学)に依頼した。

3. 結果と考察

図 1 の A 地点が新川起点でこの地下水(湧水)が 109ng/L、地下水に曝露される底質が 14,629ng/kg、新川の底質が 761ng/kg、新川が流入する佐鳴湖の底質が 2,773ng/kg であった。B 地点の北部承水路支流が 1,900ng/L もあり、この値は沖縄の嘉手納基地周辺の河川の 1,500ng/L よりも高い値である。B から流出する伊佐地川(谷上橋)が 110ng/L である。このように基地周辺の地下水、河川水と土壌の PFAS 濃度が高く、他の地点で

は 50ng/L 以下が多く、自衛隊基地の土壌が二次汚染源の疑いがある。浜松市は、北部承水路支流の値が高いため、活性炭浄化装置を設置して 2025 年 6 月より浄化効果検証試験を実施している。この装置の上流側が 500~600ng/L の範囲で、下流側が 200~400ng/L の範囲に低下している。除去率は 40%であるが、国の指針 50ng/L にはほど遠く、流入する伊佐地川では 100ng/L 以上あり、浄化効果はない。

4. 現状と今後の対策

自衛隊近傍から流れでている地下水の PFAS が他の地点に比べてかなり大きく、自衛隊基地内に二次汚染源があると考えられる。そのため土壌の調査が必要であるが、浜松市は「国が土壌の調査方針を出していないから調査はしない」としている。水と土壌・底質は一体なので調査はすべきである。浜松市は政令指定都市なので国と直接交渉でき、市長の判断が重要である。有権者として市に調査を要請し、地域の環境問題を解決できるように働きかける必要がある。



図 1. 調査地点

引用文献 浜松市環境保全課 PFAS 調査
分析委託:原田浩二教授(京都府立大学)

謝辞

原田浩二教授は好意で分析をしていただき、三方原台地の PFAS の現状が把握できここに感謝します。